

6 フォローアップ調査について

令和4年度に元気づくり支援金を活用して事業を実施した団体を対象に、フォローアップ調査を行いました。

調査目的：「地域発 元気づくり支援金」のさらなる有効活用を図る観点から、支援金事業実施後も継続して地域に効果を及ぼしている事例等の状況を把握し、発信する。

1. アンケート調査

調査時期：令和7年 8～10月

調査対象：令和4年度に実施された事業のうち、第三者評価が高かった事業を中心に選定

回収状況：回答団体数 105

調査方法：郵送又はメール、記名方式

調査内容：（1）支援金活用事業の効果について

（2）団体の現在の活動状況について

2. 追加調査（ヒアリング調査）

調査時期：令和7年 10～11月

調査対象：アンケート調査の回答のあった団体の中から、支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している団体を各地域1つ選定

調査方法：聞き取り調査

調査内容：（1）最近の活動状況

（2）取組の効果や課題

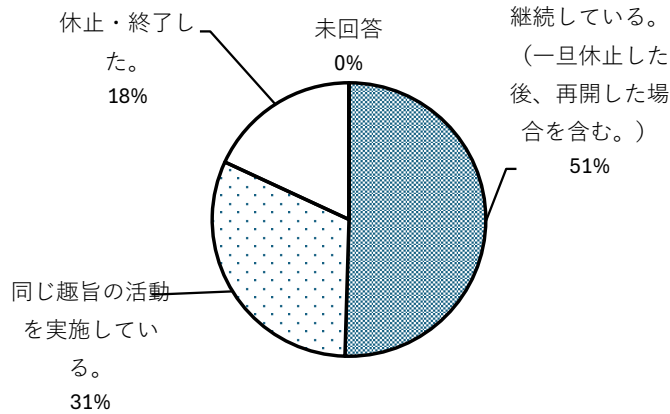
（3）今後の事業展望等

1. アンケート調査結果

令和4年度に元気づくり支援金を活用して事業を実施した団体を対象に、事業実施から一定期間経過後の地域への効果や団体の活動状況に関するアンケート調査を行いました。

○元気づくり支援金活用後の団体活動について

n = 105団体

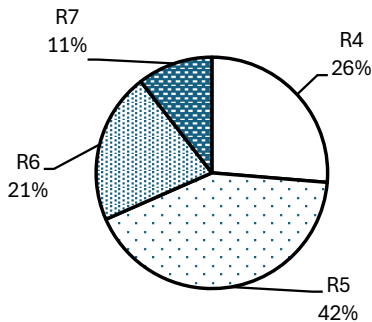


■ 元気づくり支援金の活用後も81%の団体が活動を継続している。

問 元気づくり支援金を活用後、活動を休止又は終了した(する)年度はいつですか。

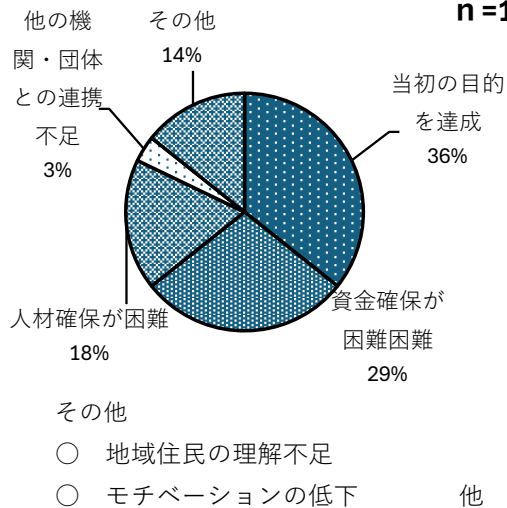
休止又は終了した(する)年度

n = 19団体



休止又は終了した(する)理由(複数回答可)

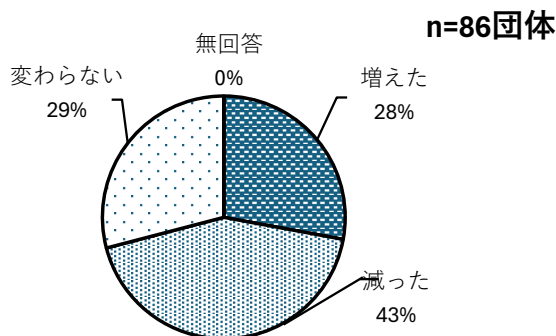
n = 19団体



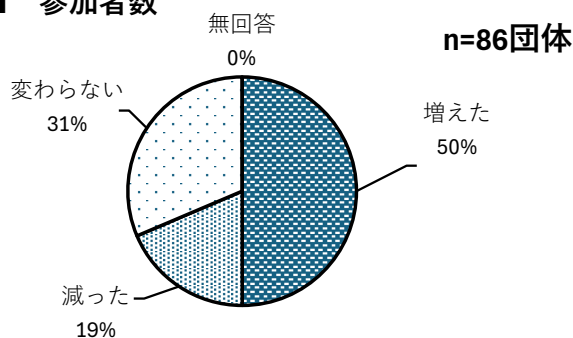
■ 資金確保が困難なこと等により、やむを得ず休止・廃止する団体がある一方で、当初の目的を達成した等の前向きな理由によるものも多く見られる。

問 元気づくり支援金活用事業を実施した年度と現在を比べて、活動に変化はありましたか。

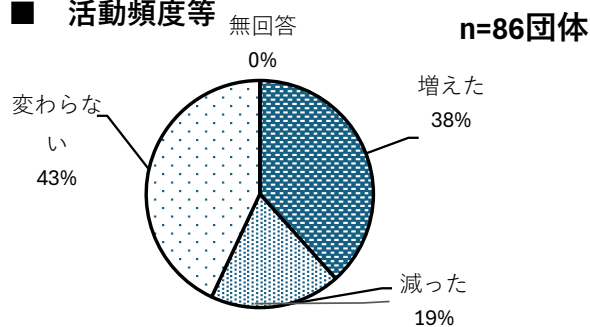
■ 活動経費について



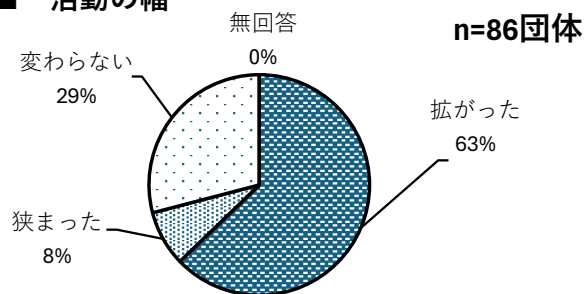
■ 参加者数



■ 活動頻度等



■ 活動の幅

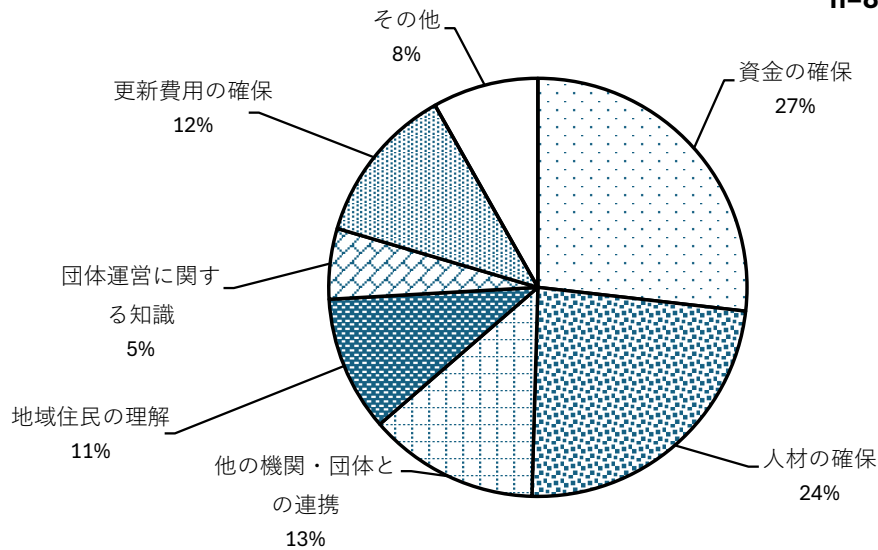


■ 総合的に見ると、元気づくり支援金を活用後、活動が活発化している団体が多い。

○活動を行っていく上での課題

問 活動していく上で、課題となっていることは何ですか。（複数回答可）

n=86団体



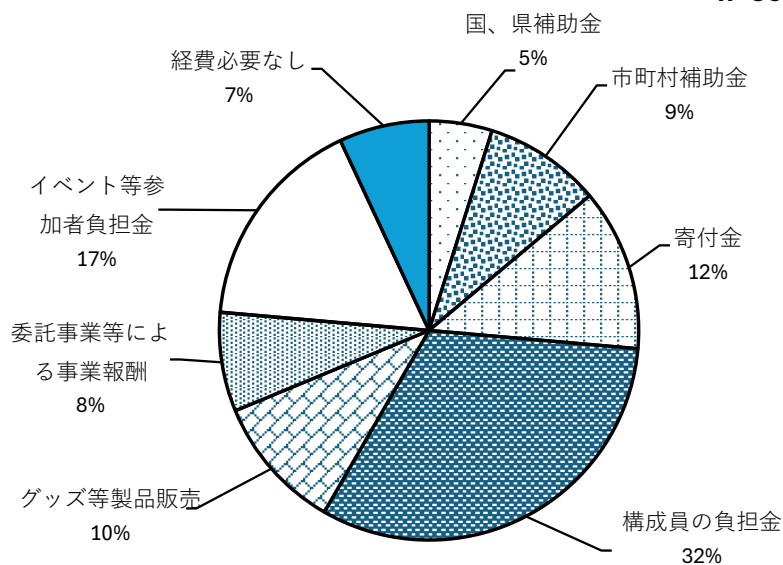
その他

- 活動内容のアイデアの創出
- 自治体の理解
- 経営面に関する専門的な知識や行動力の不足

■ 活動を続けるには資金と人材が特に必要

問 活動資金の調達先を教えてください。（複数回答可）

n=86団体



■ メンバーの負担金が多いことが課題。

国、県、市町村補助金や寄付金、メンバーの負担金等が全体の58%

「地域発 元気づくり支援金」令和4年度実施事業に係るフォローアップ調査集計

回答団体数【地区別】

佐久	上田	諏訪	上伊那	南信州	木曾	松本	北アルプス	長野	北信	合計
11	10	8	9	19	5	8	8	18	9	105

【問1】 設立時と比べた、構成員の人数の現状をお願いします。

設立時と比べ、構成員が増加	37
設立時と比べ、構成員が減少	35
設立時と比べ、構成員が同数	15
未回答・不明	18

【問2】 現在、構成員を募集している場合はその方法や課題・工夫等があればお願いします。

- ホームページ及びSNSの活用
- イベントを通じた勧誘
- 一般公募、ハローワーク、求人募集サイトへの掲載等
- 広報誌やパンフレット等
- メンバーからの紹介、口コミ等
- 新規開業の企業等に対する個別アプローチ
- 他

【問3】 元気づくり支援金を活用して取り組んだ活動（以下「活動」という。）を継続していますか。

- ① 継続している。（一旦休止した後、再開した場合を含む。）
- ② 同じ趣旨の活動を実施している。
- ③ 休止・終了した。

①	53
②	33
③	19
未回答・不明	0

①、②を選んだ方は【問4】へ、③を選んだ方は【問10-1】へお進みください。

【問4】 活動は地域に対してどのような効果があると感じていますか。

- 地域の一体感、地域に対する関心の増加・魅力の再発見
- 交流人口の増加、人と人とのつながり創出
- 地域住民の防災・減災意識向上
- 地域経済の活性化・まちのにぎわい創出
- 人材の育成・担い手確保
- 世代間・地域間・異業種間の交流の促進
- 循環型社会の機運醸成
- 地域の景観・環境整備
- 歴史や文化の継承
- 他

【問5】 元気づくり支援金活用事業を実施した年度と、現在とを比べて活動に変化はありましたか。次の番号からお選びください。

○ 活動経費 ①増えた ②減った ③ 変わらない

	活動経費	参加者数
①	24	43
②	37	16
③	25	27
無回答	0	0

○ 参加者数 ①増えた ②減った ③ 変わらない
(※ 構成員を除く事業への参加者数)

○ 活動頻度等 ①増えた ②減った ③ 変わらない
(※ イベント開催数、支援金で整備した施設等の稼働率など)

	活動頻度等	活動の幅
①	33	54
②	16	7
③	37	25
無回答	0	0

○ 活動の幅 ①広がった ②狭まった ③ 変わらない
(※ 元気づくり支援金活用事業とは別に、新たな活動に取り組んだ → ①広がったに計上)

理由

- 多方面からの期待度向上と活動の幅の広がりのため(活動頻度：①増えた)
- 事業で取り組んだ商品をきっかけに新商品開発や販路開拓を進めた(活動経費：①増えた)
- 支援金で交流施設を整備したため(参加者数：①増えた、活動の幅：①広がった)
- 他

【問6】 活動資金の調達先を次の番号からお選びください。(複数回答可)

- ① 国、県補助金 (補助金名：_____)
- ② 市町村補助金 (補助金名：_____)
- ③ 寄付金
- ④ 構成員の負担金
- ⑤ グッズ等製品販売
- ⑥ 委託事業等による事業報酬
- ⑦ イベント等参加者負担金
- ⑧ 経費必要なし

①	7
②	13
③	18
④	46
⑤	15
⑥	11
⑦	24
⑧	10

① 国、県補助金

- ふるさと信州棚田支援事業
- 地域発 元気づくり支援金
- 文化庁伝統文化子ども教育事業
- 他

② 市町村補助金

- 商工業振興事業補助金
- ひとが輝くまちづくり事業補助金
- 協働の村づくり支援金
- 他

【問7】 活動資金を得るための取組や課題・工夫等あればお願いします。

- 他団体、行政、教育機関等とのつながりを深める
- 関係者や参加者に活動の意義を伝え、理解を得る
- SNSやホームページ等による情報発信の強化
- 物販などの収益事業を行う
- 企業からの協賛金や広告料、寄付を集める
- 経費の削減
- 他

【問8-1】 団体として市町村（市役所・役場）と連携した事業を実施したことはありますか。次の番号からお選びください。（複数回答可）

- ① 団体として実施する元気づくり支援金活用事業の中で連携したことがある。
- ② ①以外の団体として実施する事業の中で連携したことがある。
- ③ 市町村が実施する元気づくり支援金活用事業の中で連携したことがある。
- ④ ③以外の市町村事業の中で連携したことがある。
- ⑤ 実施したことはない。

①	40
②	24
③	6
④	23
⑤	16

- ③～④を選んだ方は【問8-2】へ、③～④を選んでいない方は【問9】へお進みください。
- ※ 連携した事業とは、事業の共同実施のほか、企画・立案・実施のいずれかの段階への参画・協力や、事業の一部又は全部の委託も含むものとします。ただし、市町村から後援を受ける以外の関わりがない事業は除いてください。
- ※ ③と④の選択肢について、市町村が実施する事業が元気づくり支援金を活用したものかわからない場合は、④を選択してください。

【問8-2】 市町村が実施する事業に団体としてどのように関わったか教えてください。

・③（市町村が実施する元気づくり支援活用事業）での関わり方

- イベントの広報等に協力した
- 市町村と連携してイベントを開催した
- 市町村が主催するイベントに助言や出店を行った
- 他

・④（市町村が実施する元気づくり支援活用事業以外の事業）での関わり方

- 市町村の事業と連携を図った
- 市のイベントやお祭りなどに参加した
- 市町村が開催するセミナーの企画・運営
- 他

- ※ ③と④の事例を別々に記載してください。（該当しないものは記載不要）
- ※ 該当する事業が複数ある場合は、それぞれ代表的なものを一つ記載してください。（記載例）

- ・市町村が実施する〇〇事業（事業概要）で、企画段階から参画し、〇〇を行った。
- ・市町村が実施する〇〇事業（事業概要）のうち、〇〇業務を市町村から委託された。
- ・市町村が実施する〇〇事業（事業概要）で、〇〇するイベントに〇〇として参加した。

【問9-1】 今後、活動を継続していく上で、課題となっていることは何ですか。次の番号からお選びください。なお、活動を休止・終了する予定の方は【問10-1】、【問10-2】へお進みください。（複数回答可）

- ① 資金の確保
- ② 人材の確保
- ③ 他の機関・団体との連携
- ④ 地域住民の理解
- ⑤ 団体運営に関する知識
- ⑥ 今後見込まれる施設・備品等の更新費用の確保
- ⑦ その他（具体的に下欄にお書きください。）

その他

- 活動のPRに関する専門的な知識の不足
- 自治体の理解
- 活動内容のアイディアの創出
- 会場の確保
- 会員の高齢化・減少
- 他

①	59
②	52
③	29
④	23
⑤	12
⑥	27
⑦	18

【問9-2】 【9-1】の課題を解決するために必要な支援、事項は何ですか。次の番号からお選びください。
(複数回答可)

- ① 国・県・市町村の補助金
- ② 補助金以外の財源確保に関する知識
- ③ 地域活動などの専門知識を有する外部人材の派遣
- ④ 地域づくり団体との情報共有・ネットワークづくり
- ⑤ その他（具体的に下欄にお書きください。）

①	48
②	22
③	16
④	35
⑤	19

その他

- 自主財源の確保
- 市町村や地域住民の理解とバックアップ
- 専門的知識を有する人材の確保
- 事業内容の見直し
- 他の補助金・助成金の紹介
- 自立に向けての伴走支援
- 他

→ 【問11】へお願いします。

【問3】で「③」を選択、又は【問9-1】で「休止・終了する予定の方」
【問10-1】 元気づくり支援金活用事業を実施した後、休止又は終了した（する）
年度を記入してください。

休止・終了年	
R4	5
R5	8
R6	4
R7	2

【問10-2】 活動を休止又は終了した（する）理由を次の番号からお選びください。
(複数回答可)

- ① 当初の目的を達成
- ② 資金確保が困難
- ③ 人材確保が困難
- ④ 他の機関・団体との連携不足
- ⑤ 地域住民の理解不足
- ⑥ 団体運営に関する知識不足
- ⑦ モチベーションの低下
- ⑧ 新型コロナウイルス感染症の影響
- ⑨ その他（具体的に下欄にお書きください。）

①	10
②	8
③	5
④	1
⑤	1
⑥	0
⑦	1
⑧	0
⑨	2

その他

- イベントの中心メンバーの高齢化
- コロナ禍により自走化までたどり着けなかった
- 他

【問11】 元気づくり支援金を活用した経験から、元気づくり支援金の補助内容などに関してのご提案や、これから応募する団体へのアドバイスがあればお書きください。

- 補助率を上げてほしい。
 - 書類作成の負担が大きいため、申請に係る書類を簡素化してほしい。
 - ある程度の資金が最初に無いと厳しい運営を強いられるが、支援金に応募することで次はこうした方がいいのではないかという目標や描く将来像も徐々に見えてくる。大変だったが、この元気づくり支援金があったおかげで最初の一歩を踏み出して良かったと思っている。ぜひ挑戦してもらいたい。
 - 3年までしか継続申請ができないが、10年ほどの継続した支援をしてほしい。
 - 大変有意義な支援金だと思う。埋もれている立派な活動に申請を勧めたい。
 - 一過性のイベントで終わらせないために、自走できる仕組み作りが大事だと思う。
 - 安定的自主財源の確保は大きな課題であり、他団体や県・市町村にアイデアをご提供いただきたい。
 - 事業実施に際しては入念な下準備と打ち合わせ、事業目的やターゲットを全員で共有把握することが最重要であることが重要だった。
 - 小規模団体の活動では、1/4の自己負担は重荷になっているため、事業の開始年度などは自己負担なしとしていただきたい。
 - 元気づくり支援金事業の実施後も活動を継続・拡大していくビジョンを明確にして応募することが必要だと思う。
 - 支援金は、県民の税金から支出している大切なお金なので、必ず会計処理には担当者を専任し、対象経費になるのか確認しながら事業を計画並びに実施していくことが重要だと思う。
 - 元気づくり支援金のおかげで、良い基盤ができ活動の裏付けができた。
 - 事業費の何パーセントかを事務・管理費として予算をつけてほしい。
 - 支援とは、支援金だけでなく、事業構築等のアドバイスを聞きたい。
 - 様々な地域課題に柔軟に活用できる支援金であり、申請にあたっては県担当者と相談して進められるため、課題解決意識の熱意があれば採用してもらえらる制度である。
 - 補助金の効果が5年、10年後に評価される事業であってほしい。
- 他